

4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

■美術館大学センター

新型コロナウイルス感染症が収束しない状況のなか、令和4（2022）年度第5回「山形ビエンナーレ2022」の開催に向け開催方式など基本計画を策定した。あわせて、関連事業として文化庁などからの外部資金を活用し、4つのアートプロジェクトと先進事例の調査研究などを実施した。

ビエンナーレ開催準備に向けては延べ11回にわたるディレクターズ会議での議論を重ね、今後の感染状況が読めないなか、中心市街地での展開を重視した対面によるリアルイベントとしての開催を基本としつつ、感染拡大時にはオンライン形式に段階的に移行可能な開催方式を採用することを方針として定めた。

■全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）

令和2（2020）年度は新型コロナウイルスの影響により開催を見送ったが、今年度は開催スケジュールの変更や決勝大会をオンライン方式で開催するなど、大会全体にわたる大幅な見直しを行い実施した。大幅なレギュレーション変更にもかかわらず、応募チームは51校602チームにのぼり、二次審査を経て入賞した10チームによるオンラインでの決勝大会を2月下旬に開催した。今大会は、従来と比較して参加チームは減少したものの、今後の新たな開催スタイルと探究型学習発表の場としての可能性を検証するための有意義な機会となった。